

令和6年度 高崎商科大学附属高等学校 学校評価一覧表(様式Ⅱ)

| 羅 針 盤 | | | 担当部署 | 第1回自己評価(9月) | | 第2回自己評価(3月) | | 次年度の課題・改善方策(3月) |
|--------------------------------|--------------------------------------|---|----------------------------|-------------|---|-------------|---|--|
| 評価対象 | 評価項目 | 具体的数値項目 | | 達成度 | 改善状況のまとめ | 達成度 | 改善状況のまとめ | |
| Ⅰ 学習環境を整備し、特色ある学校づくりに努めていますか。 | 1 生徒の能力や特性を育成する機会を与えていますか。 | 1 様々な学習やその他の活動の機会が提供されていると評価している生徒が70%以上である。 | ・企画運営会議 (アンケートNo.1&14) | A | 「良く当てはまる」「当てはまる」と答えた生徒が81%と高い評価となった。全教室へのプロジェクト設置や全生徒へのタブレット端末での学習などICT機器の活用が評価されたと考えられる。 | A | 第1回の評価と同じ81%と高い評価を維持できた。年間を通してのICT機器の利用や学園祭などの学校行事が良い影響を与えたと考えられる。 | 今後も引き続き生徒の能力や特性を育成できる教育環境の整備や学校行事の充実に努める。特に、授業でのICT機器の利用をさらに促進していきたい。 |
| | | 2 生徒の能力や技術向上のための学習環境が整備されていると評価している生徒が70%以上である。 | ・教科部会 (アンケートNo.2&15) | A | 「良く当てはまる」「当てはまる」との回答が生徒・保護者ともに81%を超えており、学習環境の整備状況は良好であると思われる。 | A | 第1回と同様に81%生徒・保護者から「当てはまる」以上の評価を得た。全教室にwi-fi環境が整備され、ICT機器の積極的利用が学習支援につながった。 | 平日は20時まで、土・日・長期休業日も17時まで利用できると、学習支援員を配置していることも質問や相談に対応できるようになっていることが高い評価につながった。 |
| | | 3 放課後、学習室を利用して、自主学習をする生徒が1日25人以上である。 | ・図書運営部会 ・科、コース部会 | A | 学習指導員制度を導入し8時まで学習室を開放したことで自主学習の定着ができたと考えられる。 | A | 年間を通して、学習室の利用は一日平均26.4人であった。年度を通じて自主学習の意識は高まったと考えられる。 | 学習指導員制度もかなり定着してきたように感じる。今後も生徒の積極的な利用を、進路により等で促していく。 |
| Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。 | 2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。 | 1 生徒による授業アンケートを年2回実施し、授業改善に活かしている。 | ・教科部会 | A | 第1学期末に授業アンケートを行った。教科会議にて、それぞれの評価に基づいて改善点について話し合った。 | B | 第2学期末に授業アンケートを行った。各自で改善できた点と課題として残った点の確認を行った。 | 教科指導に関しては、それぞれの教科の特性や担任の指導方法によっても差はあるが、アンケートをもとに授業改善に努める必要がある。 |
| | | 2 生徒の実態をふまえたわかりやすく工夫された授業が行われていると評価している生徒が70%以上である。 | ・教科部会 (アンケートNo.3&16) | B | 生徒の75%が「当てはまる」以上の回答に対して、保護者の回答は60%と、目標をかなり下回った。 | B | 今回も「当てはまる」以上の回答をした生徒が75%に対し、保護者は57%とかなり低かった。 | 授業公開に来校した保護者の感想は大変良好で、授業評価も高い、一方このアンケートで生徒と保護者の評価に違いがある理由を見つけることが必要である。 |
| | | 3 家庭学習のための教材や課題を提供していると評価している生徒が70%以上である。 | ・教科部会 (アンケートNo.5&18) | B | 生徒の74%が「当てはまる」以上と回答しており、適切であったと考える。保護者の回答は63%であった。 | B | 77%の生徒が「あてはまる」以上と回答しており適切であったと考える。保護者の回答は61%と低かった。 | 生徒に比べ「当てはまる」と回答した保護者が低かった。生徒の平均家庭学習時間は、1時間未満が圧倒的に多く、家庭学習の習慣化を図る必要がある。 |
| | | 4 学校図書館における1日平均貸し出し数が20冊以上である。 | ・図書委員会 | B | 図書館を訪れる生徒は1日あたりのべ20人と一定している。貸し出し数はそこまで届かず平均10冊程度であった。人気のある本に集中し、順番待ちをする傾向が見られた。 | B | 貸し出し数は平均10冊程度と特に変化はないものの、3月実施の読書会に向け、貸し出し待ち解消のため買い足す図書もあった。ビブリオバトル実施など少しずつ行事も戻りつつある。 | ビブリオバトルは2年生の生徒が中心となっており、次年度に向け意欲がある生徒もいた。そういった生徒を伸ばすとともに図書委員を中心に行事への参加と日頃の活動を行っている。 |
| | 3 生徒は確かな学力を身につけていますか。 | 1 7月と12月に学習状況と学力を測定するための評価テストや授業アンケート等を実施して、指導の指標とする。 | ・教科部会 | A | 4月に実施したスタディサポートの結果を参考に、各クラス、進路指導や学習指導に活用した。また、7月に実施した授業アンケートの結果を授業の振り返りに役立てた。 | A | 9月に実施したスタディサポートと4月に実施したスタディサポートの結果を比較し、学習指導に取り組んだ。また、7月と12月の授業アンケートの結果を比較し、授業改善に活用した。 | 年間2回、スタディサポートを実施することは、学習理解度や進路希望等を把握するのに有効であって、次年度以降も活用していきたい。授業アンケートも授業改善に活用できるので、今後も継続して実施したい。 |
| | | 2 進路目標や学習到達度に応じて、適切なアドバイスを学習指導が行われていると評価している生徒が70%以上である。 | ・教科部会 (アンケートNo.4&17) | A | 7月のアンケート結果では「あてはまる」「よくあてはまる」と答えた生徒は全体の84%であったが、保護者は70%であり、生徒と保護者では認識のずれが見られた。 | A | 2月実施のアンケートでは、「あてはまる」「よくあてはまる」と答えた生徒は全体の85%と2ポイント上昇したが、保護者は70%と、1回目の結果と変わらなかった。 | 2回のアンケート結果から、生徒と保護者ではやや認識のずれがあるものの、平均77%が「適切なアドバイスや学習指導が行われている」と評価していることがわかる。これは目標の70%以上を超えており、目標が達成できている。 |
| Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。 | 1 組織的、継続的な指導をしていますか。 | 1 科・コース委員会、生徒指導委員会において、目標達成のための会議を週1回程度行う。BLENDで必要な情報を発信していく。 | ・科・コース部会 ・生徒指導部会 | A | 生徒指導委員会を週に1回程度行い、各科コースでの問題点を共有し校則の見直しなど意見を幅広く聞きながら実施した。 | A | BLENDを活用することで、学校・学年・コース・クラスからの様々な連絡がスムーズに保護者・生徒に伝達できた。 | 各科・コースの先生方で構成される生徒指導委員会でも、さまざまな問題の共有を行い、学校全体の問題として捉えることができた。これを個々の先生に浸透させることが課題である。 |
| | | 2 教員による週番業務、校内安全点検にて清掃状況、管理状況の点検、確認を行う。ヘルメットの着用を含め、交通安全指導を行う。 | ・学年部会 (アンケートNo.6&19) | A | 警察の交通課職員より1年生への交通安全講話を実施。生徒全体へは生徒指導主事より学年集会で実施。交通係から鑑札、ヘルメット、施錠の確認を定期的に行った。 | B | 交通事故については、20件の報告があった。自転車の事故が多く、ヘルメット未着用の生徒もいた。改めてヘルメット着用を呼びかけた。 | 清掃美化については、整美委員の職員が中心になり清掃箇所の見直しや清掃方法の指導を行った。交通安全指導については、ながら運転が法律で厳罰化されたことから、さらに規範意識を高めたい。 |
| | 2 生徒がそれぞれの特性や興味を生かして活動できる場を提供していますか。 | 1 転退学者数、年間15人以下、出席率99%以上を目標とする。SNSへの理解を深めトラブルを防止する。 | ・生徒指導部会 | C | 友人関係でトラブルが多く、一度関係が崩れると修復することができない生徒が多く、孤立してしまう生徒も多い。 | C | 欠席・遅刻の数が多く、コロナ以降ちょっとした体調不良でも欠席する生徒が多い。欠席はさほど多くないが、特定の科目について欠課時数の超過者も多い。 | 転退学者は学年末で20名を超えるを予想される。友人関係で修復できない生徒がほとんどである。SNS関係でアカウントの乗っ取りやなりすまなどもあり学校だけでは対応できないので早期に警察に相談する必要がある。 |
| | | 2 生徒の特性や関心を生かせる学習やクラブ活動の場を提供していると評価している生徒が80%以上である。 | ・学年部会 (アンケートNo.6&19) | A | 高体連や高文連関係の大会が予定通り実施され、多くの部活動が関東大会や全国大会に出場した。 | A | 生徒の83%、保護者の80%が「当てはまる」以上の回答であった。全校生徒の80%が部活動に所属して活発に活動している。 | 学校教育において部活動の役割は生徒の成長に欠かせない場であるが、一方で指導者の不足や負担軽減についての課題が残る。また、土曜講座のあり方にも見直しが必要である。 |
| | | 3 生徒が心身ともに成長できる学級活動や学校行事が提供されていると評価している生徒が80%以上である。 | ・科・コース部会 (アンケートNo.7&20) | A | 観劇や修学旅行・商大附高祭等予定の行事は実施できた。特に商大附高祭は全校そろっての実施で大いに盛り上がった。 | A | 「良く当てはまる」「当てはまる」が合わせて生徒83%、保護者82%であった。各種行事が予定通りに実施できたことが高評価につながった。 | 学校行事は生徒が楽しみながら協働活動を通じて知識や人間力を身につける重要な場でありさらに充実させていきたい。 |
| | | 4 校内・校外で実施される活動について情報が提供されていると評価している生徒が80%以上である。 | ・科・コース部会 (アンケートNo.8&21) | A | 進路選択に向けてのガイダンスや校内での説明会などについて情報提供された。 | A | 「良く当てはまる」「当てはまる」が合わせて生徒、保護者83%と目標を上回った。学校でのような活動が紹介されているかが保護者、生徒にBLEND等で配信し、伝えられた結果ではないかと考えられる。 | 高崎商科大学との高大連携活動や企業・大学等からの各種応募活動を今年度同様、保護者にも伝わる方策を検討する必要がある。 |

令和6年度 高崎商科大学附属高等学校 学校評価一覧表(様式Ⅱ)

| 評価対象 | 評価項目 | 具体的数値項目 | 担当部署 | 第1回自己評価(9月) | | 第2回自己評価(3月) | | 次年度の課題・改善方策(3月) |
|--------------------------------|--|---|----------------------------|-------------|--|-------------|--|--|
| | | | | 達成度 | 改善状況のまとめ | 達成度 | 改善状況のまとめ | |
| Ⅳ 生徒の主體的な進路選択について適切な指導をしていますか。 | 1 計画的な指導を行っていますか。 | 1 各学年で適切な進路指導関係の行事を計画し、適切な助言や情報が提供されていると評価している生徒が80%以上である。 | 進路指導部会 (アンケートNo.11&24) | A | 進路に関する情報収集の場を、校内外に用意していると評価している生徒が81.0%であった。 | A | 校内外のガイダンスの実施や、資料室の有効活用を実施し進路情報提供をしたため、評価している 生徒が83.4%であった。 | 本校独自の進路ガイダンスの実施や、校外(業者主催)の進路相談会の紹介を行うとともに、学期ごとに進路だよりを発行する。 |
| | | 2 生徒の将来の志望について理解し適切な助言や情報を提供していると評価している保護者が80%以上である。 | 進路指導部会 (アンケートNo.9&22) | B | 生徒の将来の志望について理解し適切な助言や情報を提供していると評価している保護者が73%であった。 | C | 生徒の希望進路について理解し、放課後や長期休暇を有効活用しながら、適切なアドバイスを実施した。保護者の評価は、74.2%であった。 | 保護者面談や学年学級懇談会、父母の会総会等での講演や資料、また進路だよりを発行する。また、常に最新の情報提供を行う工夫をする。 |
| | 2 生徒が自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。 | 1 生徒の適性や能力を把握するための機会を提供していると評価している生徒が80%以上である。 | 進路指導部会 (アンケートNo.10&23) | A | 生徒の適性や能力を把握するための機会を提供していると評価している生徒が85.6%であった。 | A | 課題確認テスト・模試や面談を行うことで機会の提供に努めたが、評価は86%でほぼ横ばいであった。 | 適性検査や模擬試験の回数や日程や内容等、各科・コースの状況に合わせ精選する。 |
| | | 2 進路実現に向け積極的に取り組む指導を重視する。共通テスト受験者100名以上、国公立大学30名以上、中堅以上私大合格者30名以上を目指す。 | 進路指導委員会 | C | 大学入試共通テストの受験希望者は75名となり目標の達成はできなかった。 | C | 国公立大学は筑波大学・新潟大学・県民健康科学大学など22名の合格者が出た。また、日東駒専以上の中堅私大の合格は36名となっており、こちらは目標の達成ができた。 | 保護者や生徒に対し、様々な機会をとらえて、持続的な啓蒙活動を行っていく。学習室・進路資料室の活用を通して、進路実現へ向けたサポートを継続的にやっていく。 |
| Ⅴ いじめのない学校作りに努めていますか。 | 1 いじめ防止や発見のための具体的対策を行っていますか。 | 1 面談やアンケートを通じて、学校が生徒理解に努めていると評価している生徒が70%以上である。 | 生徒指導部会 (アンケートNo.12 &25) | A | NASI-R・Edv Path・学校生活アンケート・保護者、生徒面談を活用することで生徒理解に努めることが出来た。生徒72%が学校は生徒理解に努めていると回答している。 | A | 生徒75%が学校は生徒理解に努めていると回答している。精神面、心の問題を抱える生徒が増加しており保健室、カウンセラー室、生徒指導の情報共有の重要性が高まっている。 | 生徒の小さな問題を見落とすことが大きな問題につながるという意識を常に自覚することを職員全体に浸透させたい。 |
| | 2 生徒の人間の成長を助ける機会を提供していますか。 | 2 学校は講演会等を開き、命や思いやりの心を学ぶ機会を提供していると評価している生徒が70%以上である。 | 生徒指導部会 (アンケートNo.13 &26) | A | ホームルーム活動や学年集会、生徒指導委員会の呼びかけ、リーフレットの配布、ポスターなどで発信した。アンケート結果は生徒73%、であった。 | A | 日常的なHR等を利用して、日常的な活動から思いやりなどの意識をもたせる指導を実施。アンケート結果は生徒80%が思いやりや心を学ぶ機会を提供していると回答している。 | LHR等を計画的に組み立てる中で意識出来る工夫が求められ、性教育から生教育への結びつけを念頭に2年生の性教育でも指導。 |
| Ⅵ 開かれた学校づくりに努めていますか。 | 1 家庭・中学校等に積極的に情報発信をしていますか。 | 1 商大附高だより(年2回)、同窓会報(年1回)を発行し、学校生活の様子や学校行事について情報発信する。 | ・各学年 | A | 予定通り「商大附校だより94号」を発行した。部活動の活躍を中心に、ほぼコロナ以前に戻った学校の様子を伝えることができた。 | A | 「同窓会報」「商大附校だより95号」を発行した。「商大附高祭」の様子を伝えることができた。 | 学校行事や生徒や同窓生の活躍を伝える手段の一つとして有効であり、今後も継続して発行することが良いと思われる。 |
| | | 2 学校の教育活動を広く理解してもらうため、ホームページの更新を週2回程度のペースで必要に応じて実施する。また、オープンスクールや入試説明会・個別相談会を実施して中学校に本校を理解してもらえよう内容を工夫していく。また、中学校主催の学校説明会において本校を印象付け、オープンスクール参加を促す。 | ・教務開発部会 ・教務 | A | 予定通り週2回程度のペースで、学校行事や各種大会結果等をホームページに掲載し、多くの人に向けて情報発信を行うことができた。また、ホームページのデザインを新しくし、より見やすくすることができた。 | A | オープンスクール、入試説明会、個別相談会を実施して、本校を理解してもらえように努めた。また、ホームページを通して継続的に情報発信したことで、昨年と同数のオープンスクール参加者を集めることができた。 | 多くの受験生や中学校の先生方に本校の教育目標や特色を理解してもらえよう、オープンスクール、入試説明会等を充実させ、また、ホームページの更新を引き続き週2回程度のペースで行っていく。 |
| | | 3 受験生や中学校に本校の特色や教育活動について理解してもらうため、中学校訪問、オープンスクール等を実施し、3,500名以上の中学生・保護者の参加、総受験者数2,500人、入学者450人(定員)確保に努める。 | ・教務開発部会 ・教務 | B | 夏季休業中に4回、9月1回、計5回のオープンスクールを実施した。生徒・保護者合わせて3400人近い参加者があり、広報活動としての目的をほぼ達成。 | C | Gメッセでの「入試説明会」には963人と、昨年よりは60人程減少し1000人を下回った。受験者数は2,166人と昨年と変わりはなかったが、入学予定者数は364人と減少した。 | 推薦入学の数が287人と昨年を大きく下回った結果、入学予定者数も大きく減少した。教育内容に加え、日常の学校生活や楽しいイベントなどを中学生にアピールできる広報を行う必要がある。 |
| Ⅶ 施設設備の安全・維持管理のための点検を行っていますか。 | 1 校地・校舎の整備状況を確認し定期点検を励行していますか。 | 1 点検チェックリストに基づいた校内の工作物及び機器等の安全点検を月次で実施する。 | ・事務 | A | 7月に校内安全点検、4月・6月・8月に電気設備点検、8月に防火設備点検及び貯水槽清掃、6月と9月にエレベーター点検、9月に簡易専用水道検査を実施。 | A | 12月と3月に校内安全点検、10月・12月・2月に電気設備点検、12月と3月にエレベーター点検、3月に防火設備点検を実施。 | 点検チェックリスト(学校用)を用いた校内安全点検を実施している。月次の安全点検を確実に実施していく。 |
| | | 2 学園の長期建物保全計画を基にして、施設維持のため計画的な修繕工事を実施する。 | ・事務 | A | 夏休み期間に、全校舎のガスエアコン室外機メンテナンス及びガス漏れ検知器交換、消火栓ホース耐圧試験を実施した。 | A | 12月に部室棟およびトレーニング室の新築工事が完了した。また、武道館2Fの空調機器追加工事を実施した。 | 点検チェックリストや学校評価アンケート等で提供される情報を参考にし、安全な学校生活環境を提供する。大規模修繕の必要がある場合は、情報を早く得ることにより、予算化と補助金活用の検討が必要である。 |